

## 高度薬学管理機能を有した糖尿病患者ケアを担う薬剤師の育成について

西村佳子<sup>1</sup>、中村泰朗<sup>2</sup>、郡司清志<sup>2</sup>、水口真一<sup>1</sup>

総合メディカル(株)人財育成部<sup>1</sup>

総合メディカル(株)そうごう薬局天神中央店<sup>2</sup>

### 【目的】

近年、糖尿病治療は新薬の出現により選択肢が増えたことで、新たな副作用管理の必要性が発生している。また高齢の糖尿病患者が増加するなか、血糖コントロール目標については、合併症予防のみならず、低血糖リスクや認知機能、ADLなど複合的な評価が求められている。そこで、2016年より糖尿病薬物治療の安全性・有効性を適切に評価し、患者の病態・生活背景に適した処方提案ができる糖尿病専門の薬剤師育成を目指した取り組みを開始したので報告する。

### 【方法】

2016年2月より当社グループ店舗の薬剤師15名を対象に、集合研修及び現場での糖尿病患者ケアに対する実践支援を開始した。集合研修では、低血糖などの副作用評価や病態把握、処方提案などの薬学的評価を中心に実施した。実践支援では、担当患者の情報収集や評価内容について、糖尿病療養指導士資格者による継続的な振り返り支援を行いながら、定期的に症例報告、取り組み状況報告を収集した。

### 【結果】

2016年10月の担当患者総数は494名であった。症例報告では、低血糖リスクの回避、インスリン単位数の再設定提案、服薬アドヒアランス改善の事例が多くみられた。取り組み内容の変化として、検査値や糖尿病連携手帳による病態把握のための情報収集や、医師の処方意図把握ための医薬連携の活発化が挙げられた。また、症例報告の書き方を研鑽することで、より多くの実際的な事例とその評価内容を薬剤師間で共有できるようになった。

### 【考察】

糖尿病患者の問題点は食事・運動療法など多岐に渡るが、本取り組みは、薬物治療の選択、安全性・有効性評価に特化して研鑽することで、高度薬学管理機能が求める薬学的知見に基づいた患者指導・処方提案が出来る糖尿病療養指導の実践が期待できると考える。